

市

民

の

声



知覧町 東別府

外園 千代子

大自然に生かされて

鹿児島県はからいも、お茶、豚、牛、鶏、野菜などものづくりは天下一品です。農業県として発展し続けての今日なのだと改めて考えさせられます。

近年の自然災害には、驚きの連続ですが、春夏秋冬、四季の恵みをいただいている私たちであると思う時、すべてを受け入れ、許し、感謝する気持ちも決して忘れてはならないと思います。

十数年前から故郷の知覧で再び生活させていただくようになりました。

少子、高齢、それは現実として止められない自然の流れであると感じますが、地域の皆さんのおかげで毎日を過ごしております。

知恵ある人間、木や花、風の中の一部であると思う時に、それぞれの立場を理解し、尊重し、認め合う時にすべてが良い方向へと流れるように思えるのです。しかし、現実には自分の生活のために必死なのです。

人、物、環境を大いに生かし生かされ日々の生活の中から「生きる力」を得られるのでしょうか。

一人の力は限られますが、市民の代表として日々議論してくださっている議員の方々、市民のためにご奮闘ください。



川辺町 田部田

大園 良一

命ある喜びを深く味わう高齢者

深く味わう高齢者

南日本新聞の報道によると県内の65才以上の高齢者は3割以上で、本市も36・6%と超高齢化が進んでいる。

老後の不安は膨らむが長寿社会を豊かに生きるには老いと向き合って歩んでいかなければならない。高齢者の約7割が働きたいと願っており、その思いに大変勇気づけられている。

いつまでも元気で豊富

な経験や智恵を社会で發揮していただきたい。

最近では、墓参りをする方のほとんどが高齢者で若者を見かけるのは盆か正月くらい。墓前には生花ではなく造花が目立つ。帰郷しての墓参りは時間と経済的負担が大きく、ご先祖様から続く故郷の墓参りは年老いた両親に任せざるを得ない状況である。ご先祖との関わりの希薄化と同時に伝統的風習や観念も消えつつあると感じる。

さて、このような背景には急速な少子高齢化の進行があり、子どもを産み育てる環境づくりが大事ではないだろうか。

その一助として、我々高齢者が若者の結婚の希望をかなえるため、南九州市でも「きもいりどん」を発足させ、若者の結婚を支援する制度を設けていただきたい。

市の人口が増えることは命ある喜びを深く味わう高齢者の願いであります。

人事案件

◆人権擁護委員◆

知覧町郡

江平 定氏



任期は、市が議会の意見を求め法務大臣に推薦し、法務大臣が委嘱した日から3年間です。

編集後記



朝夕は、めっきり肌寒さを感じ、本市でも普通米・サツマイモの収穫を目にするようになり秋の季節を感じるようになりました。

さて、9月に上陸した台風16号で被害を受けた市民の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

議会と市民をつなぐ大切な広報誌として、市民の方々にわかりやすく、親しみやすい内容に努めてまいります。

市民の皆様には引き続きのご愛読とお気軽に意見等の声を寄せていただきますようしくお願いいたします。

(大久保)

▼広報編集委員会

委員長 西 次雄
副委員長 鮫島 信行
委員 日置 友幸
大久保太智
浜田 茂久
満留 秀昭